

令和 6 年度 第 4 回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和 7 年 1 月 30 日（木）午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）

【委員②】中村町自治会長

【委員③】静岡市大里生涯学習センター長

【委員④】ありんこの里管理者

【委員⑤】本校 P T A 副会長

【委員⑥】小糸製作所人事部人材開発課

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務・情報課長、研修課長、生徒指導・防災課長、自立活動課長、

4 会議次第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 協議等

(4) 閉会

5 協議等内容

(1) 校長挨拶

- ・今年度も残り 2 カ月ほどとなった。世間では、インフルエンザ等感染症が猛威を振るっているが、本校では今のところ落ち着いた状況である。感染症予防のために日頃からの体力作りや免疫力を高める取組を大事にしていきたい。

12 月に児童生徒や保護者、教員を対象とした学校評価を行い、現在評価の内容について話し合っている。今日はこの評価について、委員の皆様からも忌憚のない御意見をいただき、来年度につなげていきたい。

(2) 協議等

ア 令和 6 年度の学校の取組と評価

(ア) 地域との協働の取組報告【各部主事から】

- ・幼稚部：今年度初めて中村町ふれあいサロンに参加した。「秋見つけ遠足」で拾った素材で作ったリースを渡したり、歌やゲームでふれあったりして楽しんだ。最初は緊張していた子ども達だったが、たくさん声を掛けてもらい徐々に緊張がほぐれていった。帰校後は「楽しかった。」や「また行きたい。」との感想を子ども達が口にしていた。今年度は 1 回の参加だったが、来年度は 2 回参加できたらと考えている。
- ・小学部：10 月から月 1 回「よんもくカフェ」に 3、4 年生が参加している。「どのように参加をするか」等、事前に学校で企画を練ったり、「次の回はどのようなことを企画したら皆さんは楽しんでくれるだろうか」と交流を振り返ったりして、次につながるように取り組んでいる。
- ・中学部：中村町の方々と 2 月に交流を予定している。校内だけでなく、校外の方々とかわる中で、様々な価値観に触れたいという生徒の希望が高まっている。

(イ) 学校経営計画の主な取組と評価【各分掌課長から】

- ・教務・情報課：児童生徒や教員の積極的なＩＣＴ活用を目指して、今年度は外部ＩＣＴ支援員が月１程度の頻度で来校し、ＩＣＴを効果的に活用した授業作りの助言や活動事例、教育アプリの紹介、デジタル教材の作成支援等様々な面で支援やアドバイスをいただいた。先日は、新しいＩＣＴツールの講習会を開き、多くの教員が参加してそのスキルを学んだ。また、今年度は小学部低学年の授業支援にも入ってもらい、iPadの使い方について楽しく学べる方法を教えていただいた。来年度も子ども達や教員のニーズを把握し、支援員の方と連携を取りながら環境整備に取り組んでいきたい。
- ・研修課：授業研究では、中心授業の他、一人一授業研の中で、授業作りについて学ぶことができた。また、年々授業内でＩＣＴを活用する機会が増加している。ＩＣＴの活用により、視覚情報による聴覚障害への対応ができること、積極的に学習参加する姿を引き出すこと、意見共有による協同的な学びを進められることがわかってきた。また、今年度始めた「個別テーマ研修」は、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて一つアクションを起こし、一人ひとりの教員が自分でテーマを決定し、掲げたことが成果なのではないかと考える。来年度は、「個別テーマ研修」、「学部研修」、「縦割りグループ」そして「県内三豊の連携」が上手く関わり合いながら学校として専門性を継承し、指導力を高めていく。
- ・自立活動課：教員のニーズに合わせて研修会を開いた。また、先輩の話を聞く会では、子ども達にとって年齢が近く身近に感じる先輩、画家として世界的に活躍する先輩を招き、夢に向かってあきらめずに頑張ることの大切さを学ぶことができた。これらの取組をとおして、教員もことばを育てる意欲がより高まった。
- ・生徒指導・防災課：自分の命を守る教育として火災避難訓練や予告なし防犯訓練、ネット安心安全講座に取り組んだ。これらの取組をとおして、子ども達が自分で考えて行動できるようになってきた。
- ・健康安全課：スポーツデイでは子どもたちが計画・運営などを行い、全員で楽しく体を動かすことに取り組みながら幼～中学部の縦のつながりを深めることができた。セルフマネジメントでは、様々なテーマについて自分の意見や考えを伝えるだけでなく、他の友達の意見に触れたり、「ほっとしたよ。」「解決できたよ。」などのように反応したりすることでいろいろな解決方法を知ることができた。

(ウ) 年度評価について【校長から：別紙を提示】

- ・前回いただいたアドバイスを基に、達成したか否かだけでなくどのくらい幅が広がったかの視点を今回の評価にとり入れた。今年度は「学校におけるあらゆる業務は子どものめざす姿につながる業務である」を共通認識とし、全教職員で取り組んできた。

前回御指摘があったアンケート回答項目の「未記入」については、アンケート前に「自分が直接かかわっていなくても、学校の一員として捉える」ことを教職員に伝えたが、今回も「未記入」の項目があった。これについては意図がある「未記入」と捉え、評価として残した。

(エ) 委員からの感想等

- ・対話をしながらコミュニケーションを図っていく、人とのふれあいの中でその価値観にふれながら自分を知っていくことの大切さを感じた。
- ・子どもの中に何を育てるか、以前は知識の定着中心だったが、今はそれを生かしたり使ったりすることを狙っているのだと感じた。
- ・親の立場から話すと、先輩の話を聞く会、避難訓練、スポーツデイ等を行った日の日記はとてもたくさんのことが書かれており、体験したことはやはりとても心に残るのだと感じた。防災訓練の回数の多さから、防災意識が高い子どもに育ってきていて、今後も指導を継続してほしいと思う。
- ・先輩が司会や取りまとめをしがちだが、若い人の積極的な力はすごく大事だと感じる。

小学部1年生のうちから司会をする経験はとても良いことでもっと取り組んでほしい。
また、少人数ならではの、連携をより強化していくと良い。

- ・防災訓練等、何回も行っていることを聞いて教職員の手厚い思いを感じた。
- ・ICT活用を取り入れた取組を見て、進んでいると感じた。
- ・今、力に入れていることが子ども達の将来につながっていくのだと感じた。
- ・聴覚障害、コミュニケーションにハンデを抱えながら、周囲とつながることを意識した教育を実践しているのだと感じた。紙の教科書や板書よりもICTツールを活用するメリットはかなりある。しかし、デメリットの部分は何かあるのだろうか。巷ではICT活用の広がりとともに子ども達の忘れ物が増えた、などと聞こえてきているが実際の所はどうか。昔は書いて覚えたが、今は見た、目をとおした、で終わっている。定着に課題があるのではないか。学校現場では今どのような課題が出ているのか教えてほしい。
- ・ICT活用が高まると同時に、より良く使う方法についても考えていってもらえたらと思う。
- ・地域とのかかわりを大切にしている施設としては、この学校の経営計画は施設につながるものがあり、いつも参考にしている。コミュニケーション、信頼関係、情報発信はやはり大切だと感じている。

【質問事項について、各学部主事、課長から】

- ・デメリットもあるとは感じている。タブレット入力に集中するあまり話者を見ていないことが多くなる。メリハリをつけることは聴覚障害教育において大切なことだと思う。タブレット表示は板書と違い、情報が流れていくので、残すべきところ流れてもよいところを明確にしていきたい。
- ・ICT活用により、学習以外でも音楽に興味をもつなど趣味の幅が広がっている。課題としてあげられる、読み取る力、情報を選ぶ力などをつけていきたい。
- ・iPad入力は中学部の子ども達にとって、自分の気持ちを表しやすく、「書く」というハードルが低く感じられるのかもしれない。逆に小学部の子ども達にとっては、まだ速く正確にタイピングをすることが難しいなど技術不足の面があり、現状ではきちんと自分の手で書く活動を必要と考えている。

【回答を受けて委員から】

- ・問題点や課題を感じながら取り組んでいることがわかった。改善を加えながら、来年度の取り組み方について考えていってもらいたい。

(オ) 地域支援部の取組について

- ・在籍校訪問を年2回行い、直接担任と話をしたり難聴理解授業を行ったりしているが、中学校の教科担任制により円滑な引継ぎに課題を残している。在籍校における様々な課題を共有し、通級指導で取り組んでいる。また、きこえのトリセツ作りをとおして、子ども達が周囲に発信しやすくなっている、このことが将来にもつながっていくものだと感じている。
- ・学校評価における地域支援部に関するところで未回答が多いのは、通級の内容が学校全体に知られていない、または、部署からの発信が弱いのではと思う。教職員皆が地域支援部のことについて説明できるようになってほしい。
- ・在籍校では補聴器をつけない生徒について、困っているかどうかはその生徒や家族によってとらえ方は違う。本校が専門機関としてできることは、子どもの発達段階に応じて環境作りや支援を行うことである。非常に大事でデリケートな課題であり、地域支援部の教員たちは日々この課題に直面している。今後はこの課題を全校教員で共有できるようにしたい。教員それぞれがどのように取り組んでいくのか、というより、学校全体としての体制作りに組み込んでいきたい。職員は、目指す姿に近づけるためにどうすることが良いのか、という所に視点がいきがちだが、本当はその基盤となる人格形成にも重きを置きたいところである。常に子ども達と対話をしながら取り組んでいきたい。

イ 令和7年度の取組の方向性について【校長から】

- 大きな柱は変更せずに、取組の内容についても今年度同様子ども達を中心となり、人づくりを行う。また、今日いただいた御意見を教職員と共有し、来年度の学校づくりを行っていきたい。
- 委員の皆様や地域の方々に今後本校により一層かかわっていただけるように、学校応援ボランティアやゲストティーチャーなどの仕組みづくりを考えている。差支えない範囲で情報発信や御協力をいただきたい。